

桜蔭俳話会 三月句会 (第三三三回)

平成二十七年三月二十九日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 4点 陽炎や脳のどこかがすねてをり 才美
3点①めざましの止まらぬ家や春の夢 ヤエ子
3点 つくし二本摘みて病室訪ねけり 友子
2点②卒業やこつと音ある受精卵 守
2点①鉛筆よりキャップの長し卒業す 秀一
2点①啓蟄や迷路うろうる地下の街 友子
2点①帰る日を告げざる母や春の旅 守
2点①北国の駅の賑はひ燕の巢 守
2点①雛納む老けし互ひの歴史あり ツル子
2点 鳥の声雄鳴き雌鳴きの里は春 幸
2点 幼等の列のふにやふにや暖かし 弘子
2点 保線夫の黄の装束や草萌える 幸
2点 花衣とて一本も紐つけず 弘子
2点 枅酒のこぼれし皿の春うらら ツル子
2点 檻の鷹首動かすも人を見ず 幸
2点 ポニーテール揺れる駅員四月来し ヤエ子
1点①子の雛の初々しさよ子は母に 友子
1点①草芳し十一歳の誕生日 才美
1点 魚は氷に目蓋を閉ちて齒科の椅子 守
1点 机上の地図たどる楽しささくらの芽 明美
1点 骨密度平均値なり桜咲き 幸
1点 乗り継いで来し野遊びの塩むすび 弘子
1点 ねこそぎに切られし梅郷草青む ヤエ子
1点 大振りのさんしゅゆの花大甕に ヤエ子
1点 隣り合ふ地域格差や春北風 明美
1点 突然の転居聞かざる彼岸かな 秀一
1点 野火走るやうに戦後の時間過ぐ 明美
1点 夜桜は水面に映えて対をなす 眞壽
1点 水鏡夜桜写し無言なり 眞壽
1点 侘助が江戸の風情よ英勝寺 直子
1点 車座の記憶ばかりや花篝 弘子
1点 原発は無限の虚数三月尽 守

※ 夜桜に行くか行かぬか花粉飛ぶ

直子

桜散り青葉さはやか池の水

眞壽

沈丁花戻りし道の香り立つ

ツル子

合せ目のずれし折づる鳥曇	秀一
いつのこと二人で歩む夜半の春	眞壽
老猫の悲し知らせや別れ霜	ツル子
つつましき舟の行き来や桜山	才美
春の池平家は四で源氏三	直子
飛花ひとひら殉教像は海見つむ	才美
木の芽風駅舎の明かり消えゐたり	明美
百に間近の母のリハビリ黄水仙	友子
里山の春それぞれに主張せし	ツル子
園児らの乱るる列や桜東風	秀一
彼岸しか会はぬ兄弟皆老えり	眞壽
気を引けぬトルコの猫に山笑ふ	直子
とりどりの花の香漂ふ春の路地	ヤエ子
春彼岸老いた兄弟墓参り	直子
ありがたうをやさしき人へ月朧	友子
うぐひすの未だ舌足らず昨日今日	弘子
落椿箒目のまだ残りをり	秀一
知人猫朝の顔みせ花の道	幸
花の香やベンチに凭る杖二本	才美
霞たる渋谷東急プラザかな	明美
(不在投句 古野明美)	

「事務局からお知らせ」

○四月句会

- ・日時 四月二十六日(日)午後一時
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート
(相鉄線二俣川駅ライフ五階)

通信句会の方も是非ご参加ください。

○五月句会

- ・期日 五月三十一日(日)

野毛山動物園への吟行を予定しています。詳細のお知らせは次回に送付します。